目黑稲門会会報



(題字:眞仁田 勉 初代会長)

第68号 2015年9月

発行人: 吉田 博行 編集長: 地田 博昌 事務局長: 安藤 孝

事務局:〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

第16回定時総会を開催

2015年7月12日(日)、目黒雅叙園にて、来賓2名、 招待現役学生2名、男声合唱4名、会員及び家族76 名の出席を得て、目黒稲門会第16回定時総会が開催された。

午後4時、司会の笠谷興一郎幹事が開会を宣し、 大学の来賓2名を紹介。次いで、吉田会長よりご協力を得て楽しい会にしていきたい旨の挨拶があった。(要旨別掲)

ここで、議長の選出に移り、横山大相談役が選出された。議長は出席者数の報告を求め、司会より、会員163名中委任状含め121名の出席を得ており、総会が成立している旨、報告された。

議事に入り、吉本政治幹事長より(1)26年度事業報告、梶会計幹事より(2)26年度決算報告、市瀬達夫監査役より(3)監査報告が報告された。議長は3議案を一括審議とし、議場に諮ると、満場異議なく了承された。続けて吉本幹事長より(4)27年度事業計画(案)、(5)27年度予算(案)が提案され、異議なく一括承認。次いで安藤孝事務局長より(6)27年度役員構成(案)が示され、議長はこれを確認し、全ての案件に改めて賛同の拍手を求めた。これにて議事は終了。



来賓の守田芳秋早稲田大学常 任理事より挨拶があった。

昨年に続いての出席となった 同常任理事は、当会の会報に載 せられた部会活動や、今年の稲 門祭実行委員長(中西千可子幹



事)を目黒から出していることなど、当会の活発な活動に触れられた。また、8月から始まる記念会堂の解体新築工事等、今後の更なる施設の充実についても話が及んだ。

休憩をはさんで、再び笠谷幹事の司会で、第二部

懇親会が開会された。始めに、 来賓の木下健早稲田大学地域 コーディネーターより挨拶があっ た。同氏は一昨年に続いての出 席で、今年は2012年よりの中長 期計画4年目にあたり、ビジョン



150の実現に校友 の協力が不可欠 と挨拶した。

ここで大山高 明副会長のご発 声で乾杯、歓談 となった。

恒例の初参加 者紹介では、ご 結婚で目黒に転入 された中西春海 会員(平成16年 教育)が挨拶した。

現役学生2名 の紹介では、前 田眸氏(社会2 年)、小山美穂氏





初参加会員と会長

(文1年)が元気よく挨拶。2人とも早稲田祭のスタッフで、同祭はっぴ着用の挨拶だった。



宴たけなわにして、本日のアトラクション、母校現役の早稲田大学「コール・フリューゲル」4名の登場となった。美しい男声合唱で、オペラ曲、合唱組曲、懐かしい歌、思い出の歌と、うっとりするような美声を楽しんだ。



稲垣博信ボランティア部会長より募金への協力 のお願いがあり、さらに歓談が続いた。

盛会の中、司会より校歌斉 唱が告げられ、全員が大きな 輪になった。初参加で紹介さ れたチアリーダー出身の中西 春海会員による腕の振り方の 指導ののち、松田哲也会員に よる元気いっぱいの校歌斉唱 だった。

中締めは、岩佐好恭幹事の 一本締めでお開きとなった。



(田島 記)

(会長挨拶)

皆さん、こんにちは。定時総会にご出席賜り有 難うございます。

前会長から引き継ぎました大役を1年間大過なく 努めることが出来ました。ひとえに会員とご家族の 皆様のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

就任以来、会員の皆様やご家族の皆様にとって 明るく、楽しい、元気の良い稲門会となることを



願って微力ながら努力して 参りました。

各部会長のご尽力もあり、 部会活動は活発に開催され 会員相互の親睦は大いに深 められていると思います。 ボランティア活動も、部会 長を中心にワクチン基金を はじめ目黒さくら基金へ援 助、またネパール大地震に

対して義援金等、会員各位のご理解の下で積極的 に活動して参りました。

本年は、さらに楽しい稲門会活動を目指して努力をして参るとともに、入会されていない校友の皆さんに、目黒稲門会入会の啓蒙活動を強化して参りたいと存じます。

目黒稲門会での活動を通して、日々の生活を楽しく豊かにして、青春の時、早稲田大学の空気を吸ったことの幸せと喜びを改めて噛みしめて頂きたいと願います。そのために、事務局は入会勧誘や広報活動をして参りますが、何といっても、一番強力な手段は、会員の皆様の口コミです。皆様の周辺や知人の校友にお口添えのご協力とご尽力を宜しくお願い致します。

会長 吉田博行







総会出席者(敬称略、五十音順)

(来賓)

守田芳秋・早稲田大学常任理事

木下 健・早稲田大学地域コーディネーター

(現役学生)

前田 眸・社会科学部2年

小山美穂・文学部1年

(アトラクション)

早稲田大学コール・フリューゲル 4名

(会員・ご家族)

朝比奈義雄、浅海敏之、荒瀬修一郎、安藤孝、 安藤虎雄、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、 伊藤 悠、稲垣博信、猪名川一雄、井村正陽、 岩佐幸子、岩佐好恭、岩崎春雄、岩崎正夫、 鵜野洋治、海口昭治、大内秀明、大久保健治、 大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、大山高明、 尾崎 充、笠谷興一朗、梶 恵作、柏木 博、 加藤榮護、加藤令夫人、金井豊男、狩野俊夫、 川井信義、川崎真樹子、菊地崇之、小池早苗、 郡山弘文、郡山令夫人、小杉 哲、後藤克彦、 佐久間喬、嶋田勝彦、島田久家、高野 孝、 田島順一郎、田畑繁、地田博昌、千野逸平、 手塚仁雄、外岡 明、中上美代子、中西千可子、 中西春海、中西元樹、永井正孝、永田耕治、 服部尚彦、林田雅敏、林田令夫人、福井正康、 堀井良造、牧野武夫、松田哲也、丸山忠生、 水野弘文、村上 桩、村山 弘、森家一三、 保井 正、山口優幸、横山 大、吉田博行、 吉田令夫人、吉野博明、吉本政治、吉本令夫人 (76名)

<u>目黒稲門会 第16期 決算報告書</u> (平成26年4月1日~平成27年3月31日)

科目	金 額	- 第
前期繰越金	1, 266, 568	
年 会 費	804, 500	25年度5000×2名=10000円、26年度3000×1名=3000円 26年度5000×156名=780000円、2500×2名=5000円 26年度1500×1名=1500円、27年度5000×1名=5000円
総会収入	765,000	H26-7-13開催、目黒雅叙園
新年会収入	850,000	H27-1-18開催、目馬雅叙園
組織強化補助金	333,000	早大校友会より(母校支援、若手交流費補助金含む)
雑 収 入	227	受取利息
승 왕	4, 019, 295	

科目	金 額	備考
総会費	728, 610	会場費他
新年会費	891,770	会場費他
会 報 費	599, 616	会報制作発行費 (63号~66号) 及び発送費
部会運営費	150, 000	囲碁、麻雀、カラオケ、ゴルフ、ウォーキング、 よん月会、美術歴史鑑賞、食べ歩き、旅行、俳句、 若木会、ボランティア、スポーツ観戦、会報編集他
会職費	182, 771	役員会等の会議室使用料、商議員会費補助他
交際費	171, 752	東京23区支部総会、早稲田サボーターズ会費他
通信費	32, 819	総会案内状、会費納付用紙送付他
事務用品費	138, 458	各種封筒、名刺、事務消耗品、会職資料等コピー代
広告費·HP使用料	47, 408	niftyHP契約使用料、早稲田祭広告掲載料
組織強化対策費	168, 280	若手活動助成金、学生との懇話会など
雑 費	62, 694	会費等振込手数料、会員名簿作成費用他
別途積立金繰入	200,000	注2参照
次期繰越金	645, 117	注1参照
승 화	4, 019, 295	

監 查 報 告 書

私たち監査役は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第16期会計年度の会計報告を 監査数しました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成27年4月27

日無福門会 監查後 市郊沙漠夫

目黒稲門会 第17期予算

(平成27年4月1日~平成28年3月31日)

科目	金 額	備考
前期繰越金	645, 117	
年 会 費	784, 000	@5,000×165名×0.95 (納入率95%で算定)
総会収入	750, 000	@10,000×75名
新年会収入	750,000	@10,000×75名
組織強化補助費	133,000	校友会 26 年度組織強化費確定分 ※
雑収入	200	
습 計	3, 062, 317	

(支 出≫

科目	金 額	備考
総会費	750,000	会場費 (目黒雅叙園) 他
新年会費	750, 000	会場費 (目黒雅叙園) 他
会報発行費	400,000	会報印刷代
部会運営費	150,000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・食べ歩き・ゴルフ・ 俳句・美術歴史・麻雀・旅行・ボランティア・さん月会・ 若木会・早稲田スポーツ観戦・広報編集・事務局
会識費	120,000	役員会等の会議室借料、商議員会費
交 際 費	180,000	23 区支部幹事会、WASEDA サボーターズ倶楽部会費等
通信費	100,000	会報発送費、各種案內状作成
事務用品費	170, 000	業務用封筒、事務消耗品、コピー代
即運営費	50, 000	ニフティー使用料、早稲田祭広告費
維費	50,000	振込手数料、会員名簿印刷費
組織強化対策費	200,000	若木会活動援助交流対策費、会員募集費 ※3
次期繰越金	142, 317	₩2
合 計	3, 062, 317	

- ※1 27 年度景校支援・若手交流費の 200,000 円は未確定のため収入予算に計上しない。
- ※2 27年度中に申請条件が承認されれば、校友会からの銀礦強化費(母校支援・若手交流費)は 200,000円増額され、子算上の状期繰越金は342,317円となる。
- ※3 26 年度時校支援・若手交流費は料目を組織強化対策として、若木会活動援助費・若手交流 対策費・会員募集対策費に充当。

会員の広場

早稲田卒業成人式を迎えて



成田隆一 (平成7年 商) 今年の3月で早稲田大学卒業して20年が経った。もちろん諸先輩方から見れば、「たった」20年であろう。しかし、とりあえずOBとして「成人式」を迎えたと思っている。大人の仲

間入りというわけだ。

早稲田に惹かれて名古屋から出てきたわけだが、卒業後は、群れない早稲田大学を実践し、まさに「母校は遠きにありて思うもの」と決め込み、早稲田大学及びOB会組織に接することは一切なかった。誠に失礼ながら「稲門会って何?三田じゃあるまいし、OBで集まるなんて・・・」くらいな感覚でいたわけである(若気の至りとご容赦願いたい)。

早稲田を卒業後、信託銀行(途中、建設省に出 向)、外資系コンサルティング会社と外資系不動産 投資会社を経て独立した。独立は大学4年生の就職 活動時からの自分で決めた既定路線であった。と ても一生涯サラリーマンを続ける自信がなかった だけのことであるが。いずれにしろ、将来の独立 のために卒業後は仕事のスキルアップには尽力し ていた。そのため、仕事のスキルには勝手な自信 があったものの、人脈となるとやはり心もとない。 独立した人の大半が経験することのようであるが、 やたらと気だけが急く。その不安解消のため、私 もご多分にもれず人脈形成のために様々な経営者 の会などの集まりに出た。飛ぶようになくなって いく名刺。それに比例して、それなりに仕事獲得 という面では成果は出てきた。でも、である。ど うもひどく疲れる。縁もゆかりもない方々の中に ガンガン入っていくバイタリティは、どうも私に は欠けていることが分かった。そこで稲門会なる ものの存在があることを思い出し、「恐る恐る」調 べてみると、不動産稲門会なるものがあった。私 は不動産鑑定士であり、不動産投資、不動産経営(賃 貸経営、借地借家問題など)、相続事業承継(相続・ 事業承継がメインの税理士、公認会計士、一級建 築士とグループ経営している) の専門家として独 立していたので、とりあえず入会してみた。試し に出席してみると、早稲田の同窓というだけで何 とも「楽」である。ただ、それはあくまで営利目 的がきっかけだったので、良いものではあるが、 仕事が他で満たされていくと出席がなかなか億劫 となってしまうものではあったが。

仕事の獲得にもやや余裕が出てきたころ、目黒区に引っ越すこととなった(5年強前)。引越し魔であったため、東京に出てきてから、杉並、中野、文京、調布、江戸川と様々なところに住んだが、目黒区は初めてだった。もちろん知り合いはいない。そこで、営利目的ではなく初めて入った稲門会組織、それが目黒稲門会である。大丈夫かなあ?と思いつつ、すぐに「よん月会」に参加したところ、やはり楽しい。地域のことも全く知らなかったので、とてもありがたかった。

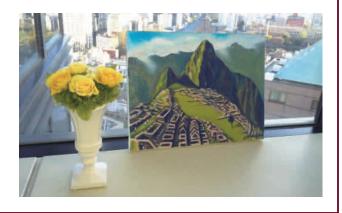
思えば、目黒稲門会への入会がきっかけで早稲田関係の繋がりが急速に広がっていったようである。まさに「引き寄せの法則」。ゼミの先生にお誘いいただき「稲龍会」という商学部卒の経営者の会に入会。永楽倶楽部や稲門経済人会などにも参加させてもらえるようになった。なぜか早稲田学報にも記事を書く機会を与えていただき(2015年2月号。早稲田の士たち)、他の3つの23区の稲門会会長と仕事をご一緒する機会にも恵まれた。目黒稲門会入会前には考えられない状況である。深く感謝したい。ちなみに次回のゼミのOB会では講師をやらされるようであり、諸先輩方の前で何を話せば良いものやらと、今から気が重いが。

昨年のゼミ OB 会でのこと。早稲田大学の中野にできた学生寮の話が出た際、「成田君もそろそろ寄付しないと」と恩師のお言葉。恩師のお言葉をかみしめつつ、大学への貢献はもう少しお待ちいただきたく。早稲田卒業ダブル成人式(40年)あたりまで。

ともかく今は諸先輩方と飲んで話せるのが素直 に嬉しい。今後も目黒稲門会はじめ様々な大学関 係のところにも出席したいと思っている。

とはいえ社内に代わりがいない中小零細企業経営者の常として、十分な時間がとれないのでなかなか厳しい面はあるが。「さん月会」(旧よん月会)も、早い時間に都立大学に辿り着くのは至難の業だがまた参加したい。出席率の芳しくない会員ですが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

先輩会員にいただいた絵画は神谷町のオフィス に飾ってある(下の写真です)。



各部会からの案内・報告

俳句部会

第74回「萩句会報告」 日時 7月13日(月)14時~17時

(順不同)

川井素山 築打つや岸に「う」の字の旗なびく

保井寶正 紫陽花の朝一番の交響詩 青木英林 花火終り人無き浜に波の音 後藤克彦 先競う赤と黒との蟻の道 佐久間喬 ビルの谷音だけ聞こゆ揚花火

永井正孝 梔子の匂ひで案内夕間暮

丸山酔宵子 噴煙をもろともせずに雲の峰

菊地崇之 おじぎ草触れてたおやめぶりためす

牧野里山 鳥が追ふ獲物の先の夕焼かな

中山志津久 山裾の谷渡りの木花火咲く

俳句部会の活動についてご紹介します。

現在の部会メンバーは男性13名女性4名、計17名です。

毎月の例会(毎月第2月曜日)を中原道夫主宰の下で「萩句会」として行っています。萩句会では大変楽しく、和気あいあいとして俳句を学んでいます。俳句に興味をお持ちの方ご参加をお待ちしています。

萩句会の模様をご案内します。

「兼題」

毎回の句会終了時に兼題といわれる次回句会の句の題 (テーマ) が出題されます。7月の兼題は「花火」でした。

[出句]

萩句会の参加者は兼題を詠んだ句を1句、その他時節に応じた句を3句、計4句を句会に出句します。 各自4枚の短冊に句を書き込み提出します。

句会をやむを得ず欠席する場合、句のみを投句 として提出することができます。

「清記 |

提出された短冊を順不同にして清記用紙ととも に5枚づつ配り、用紙に書き写してもらいます。

筆跡で誰の作品か判らないよう短冊の句を別の 用紙に書き込むのです。書き込むことにより、各 句に番号が振られます。

「選句 |

旬が清記された用紙をコピーして参加者全員に配ります。部会員全員が出句すると17名×4句=68句となるが、その中から自分の観点で句を6句選びます。選んだ6句を自分の名前を記した選句用紙に記載します。中原主宰もその間選句を行います。

「披講」

披講とは提出された選句用紙を披講者が読み上げることです。選者の名前を告げ選ばれた6句を清記用紙の番号とともに読み上げていきます。参加者は選ばれた句を聞き取り、手元の清記用紙コピーの当該句の互選欄に○印をつけていきます。

全員分の披講が終ると、中原主宰が入選句と特 選句を発表します。互選で全く選ばれなかった句 が選ばれることが、しばしば有ります。

「選評」

中原主宰が互選により選ばれた句、主宰が選ん だ句にについて添削や講評を行います。

旧かな使い、言葉の使い方、季語の意味などは 勿論ですが、句に詠まれている情景、場所などに ついて主宰の幅広い知識や素養を基に時には皆の 笑いを引き出しながら解説があり、句の修正など して頂きます。そしてこの句はどなたの句ですか と主宰が聞かれ、作者が判明します。

作者名を知った参加者の反応は「やっぱりそうか」「意外だな」「素晴らしい」などなどです。

「質疑応答」

時間がある場合には、参加者からの様々な質問 に主宰が答えていただけます。

「終了

3時間の句会を終える際に次月の萩句会の兼題が 主宰より出題されます。

「反省会」

句会は17時頃終了するので、その後は場所を変え、緊張を解いてなごやかに傾ける杯の味は格別です。新しく入られた方もすぐに打ち解けられます。

俳句部会長 佐久間 喬

中原道夫主宰のプロフィール

1951年 新潟県新潟市和納 (旧岩室村) に生まれる

1974年 多摩美術大学卒業

1982年 句誌『沖』へ投句始める

1984年 第12回沖新人賞受賞

1990年 第1句集『蕩児』第13回俳人協会新人賞

1994年 第2句集『顱頂』第33回俳人協会賞

1998年 俳句誌『銀化』主宰

現在、新潟日報俳句欄選者、NHK-BS 俳句王国選者、 日本文藝家協会会員、俳人協会幹事などを務める。

ウォーキング部会

今年の夏の猛暑には、皆様大変だったと思います。さて少しは涼しくなってきました秋の計画をお知らせいたします。皆様お誘いの上、参加をお待ちいたします。

実施報告

5月例会 江戸の名残の赤坂付近 5月19日 参加12名 6月例会 鎌倉三十三観音めぐり 第3回



7月例会 目黒駅から天空公園まで 7月21日 参加17名

予 定

9月例会 鎌倉三十三観音めぐり 第4回 日 時 9月15日 (火) 午後1時 集合場所 JR鎌倉駅改札外

10月例会 先人を訪ねて 文人集う坂の上の家 日 時 10月20日(火) 午後1時 集合場所 東京メトロ千代田線千駄木駅 改札外

11月例会 自然と歴史と東京大仏を訪ねて 日 時 11月17日 (火) 午後1時 集合場所 都営三田線高島平駅改札外 徳丸公園側

12月例会 鎌倉三十三観音めぐり 第5回 いよいよ結願です

日 時 12月15日(火) 午後1時 集合場所 J R鎌倉駅改札外

以上小雨決行です。参加される方は下記まで連絡ください。

牧野連絡先 携帯 090-9649-6868 ウォーキング部会長 牧野武夫

特別企画: 筍ほり 5月3日 参加17名 ゴルフ部会の帰りのバスで、ウォーキング部会長

ゴルフ部会の帰りのバスで、ウォーキング部会長 の牧野さんから筍ほりがあると聞き、参加させても らった。当日は、14時小田急線相模大野駅で集合して、17名のメンバーと一緒に乗り合いバスで30分。バス停から歩いて10分もかからないところに相模原稲門会・福田さんの竹藪があった。風格のある母屋の前には野菜畑があり、その先に隣接地の境界にもなっている竹藪があった。横50メートル以上、奥行きは20メートル以上の竹藪に筍が顔を出していた。何でも毎年2千本以上採れるという話しだった。

不慣れな腰つきで、鍬を筍の横に打ち込む。なかなかの作業だ。腰をやらないように注意しているが、掘れてくると、つい我を忘れてしまいそうになる。地面は好天のせいで固くなっていて、鍬の刃先が跳ね返される。

それでも汗をかきかきみんなで200本ぐらい採っただろうか。掘り終わったころ、母屋には昼食に、刺身、天ぷら、そば、筍などを準備いただいていた。お酒は土佐鶴との関係があると言うことでとても美味しかった。お酒を飲みながら、相模原稲門会の皆さんも交えた歓談の後、校歌を歌ってお開きとなった。帰りには筍のお土産が持って行ったリュックサック一杯になり、自宅で筍ご飯や、煮付けを作ったが、多すぎて近くに住む娘達に分けてもまだあまり、1週間ぐらいは筍づくしの日々が続いた。やっぱり、自分で掘ったタケノコは、新鮮で軟らかく、えぐみのない良い味だった。

(安居院文男 記)

若木会

7月11日(土)、ロマーノ高田馬場にて早稲田祭 運営スタッフの学生たちが主催する現役学生との 交流会「えんじの会」に参加しました。

現役学生は社会で活躍する先輩たちとお話する機会を心待ちにしています。目黒稲門会会員のみなさんも稲門祭や早稲田祭で彼らと絆を深め、早稲田の人の輪をより大きく、より強くしていきましょう。

暑い暑い夏を越え、秋に一回り成長した彼らと 再会するのが楽しみです。



若木会副部会長 笠谷興一朗

早稲田スポーツ観戦部会

---春季早慶1回戦観戦記-

昨年は春・秋とも目前の優勝を慶応に阻止され、 その雪辱とともに6季ぶりの優勝のかかった早慶1 回戦を25人の会員と好天に恵まれ超満員の神宮球 場に応援観戦に行きました。

両校のエース大竹、加藤の好投で緊張した投手 戦になりましたが、少ないチャンスをものにした早 稲田が先行し、試合終盤主力打者のタイムリー二塁 打等で追加点を奪い、散発3安打で慶応強力打線を 押さえた大竹の活躍も大きく4-0で勝利し、新監 督の初陣を祝う春季リーグ優勝を勝ち取りました。

久しぶりの優勝に感激した会員は渋谷で祝勝会を行い大変盛り上がりました。さらに二・三次会へと流れて行った方も少なくないと聞いています。



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

カラオケ部会

カラオケ部会は毎月第2金曜日に開催しております。参加者はそれぞれ好きな歌、得意な歌を楽しく披露しています。

6月、7月の歌唱曲総数は80曲ほどでしたが、この中からランダムにピックアップしてみました。

.

とまり木夢灯り(香西かおり)、純情二重奏(霧島昇、高峰三枝子)、ラブユー東京(黒沢明とロス・プリモス)、神田川(南こうせつとかぐや姫)、街の灯り(堺正章)、雨の港町(キム・ヨンジャ)、大和路の恋(水森かおり)、風のうた(坂本冬美)、人生劇場(村田英雄)、蒼い糸(角川博)、俺の小樽(石原裕次郎)、昔の名前で出ています(小林旭)、高原列車は行く(岡本敦郎)、月の夜は(ハワイアン)、蛍子(山川豊)、シングル・アゲイン(竹内まりや)青葉城恋唄(さとう宗幸)、北の蛍(森進一)、すきま風(杉良太郎)、小樽運河(都はるみ)、五番街のマリーへ(高橋真梨子)、南部蝉しぐれ(福田こうへい)、会津磐梯山(民謡)、隅田川(東海林太郎)、つぐない(テレサ・テン)、

お岩木山 (三山ひろし)、渚の女 (五木ひろし)

このように懐かしい歌から最近のヒット曲まで色とりどり、また発売間もない新曲も飛び出します。

現在、御年80歳、90歳を超えた方々も元気に参加しています。

皆様のお越しをお待ちしております。

カラオケ部会長 梶 恵作

美術・歴史鑑賞部会

第52回は4月28日(水)、上野公園にある東京芸術大学美術館入口に10時集合で『ダブル・インパクトー明治ニッポンの美』を鑑賞。「ペリー来航以来の近代史を日米のコレクションで探る」をテーマにボストン美術館と東京芸術大学のコレクションで検証する美術展でした。

迫力ある小林永濯「菅原道真天拝山祷図」や高橋由一「花魁」等の興味深い作品を鑑賞。参加者5名で美術館内にあるホテルオークラ運営のカフェ・レストランでカレーライスを食べて解散しました。

第53回は5月20日(水)、六本木にある国立新 美術館正門前に10時集合して『ルーヴル美術館展・ 日常を描く-風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄』 を鑑賞しました。



17世紀のネーデルラント絵画を代表する画家フェルメール。彼の真作は世界に三十数点しかないと言われています。初来日の作品「天文学者」の前には多くの鑑賞者で前に進むのに時間がかかりました。

イスラムのハーレムで横たわる裸婦の作品フランソワ・ブーシエ「オダリスタ」やジャン・シメオン・ジャルダン「猿の画家」等の見ごたえのある絵画を楽しみました。

参加者12名で美術館の近くにある雰囲気と味の 良いイタリアン「ラ スフォリーナ」でランチを食 べ解散しました。

次回は芸術の秋を感じる鑑賞会を企画いたします。 美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦

麻雀部会

第57回目黒麻雀大会は、助っ人・狩野さん、藤田女性雀士含め16名のつわもの(兵)が武蔵小山戦場サンにて戦いを繰り広げた。時は平成27年6月22日(月)のことであった。

最多優勝回数を誇る鈴木氏が、常勝小倉将軍離脱によるのか実力か、184点の最高点数にて勝ち、村上水軍が樹立した265点に次ぐ大勝で褒美の品々を総取りし気持ちよく帰陣した。因みに村上水軍は14位でBBの栄誉なし、助っ人狩野氏は3位でした。

実力か照る日曇る日か、次回を期待し約5時間の 熱戦の幕を閉じた。



麻雀部会長 鵜野洋治

食べ歩き部会

8月3日(月)の夕刻16時、都営地下鉄の勝どき駅にほど近い桟橋に20名の会員が集合して、3年ぶりの屋形船に乗りこみました。暑い日でしたが、船の中は冷房がきいて、心地よく過ごせました。

船の目線から眺める東京は、日ごろとは違う新鮮さです。レインボーブリッジをくぐってお台場へと向かう頃にはお待ちかねの揚げたて天ぷらが出ます。アナゴ、キス、エビ、イカとどれもおいしく、お酒も進みます。お台場で停泊して屋上に出ると、風が清々しく感じられました。



食べ歩き部会長 猪名川一雄

新入会員



中西春海 (平成16年 教育) (目黒区平町在住)

趣味・特技: チアリーディング 昨年末に会員の中西元樹さん と結婚しました。

目黒に引っ越しをしまして、 これからお世話になります。よ

ろしくお願い致します。

HP便り

目黒稲門会ではホームページ (HP) とともにメーリングリスト (ML) で情報の共有をはかっています。MLとは、決められたアドレスにメールを送ると、ML登録者全員にそのメールが送られる仕組みです。会員名簿にメールアドレスを記載された方はMLに登録済のはずですが、MLのメールが届いていない方・メールアドレスを変更された方・新規登録をご希望の方は事務局までご一報願います。

事務局への連絡はホームページから簡単に行えます。トップページの左端下部にある『お問い合せ』をクリックするとメール送信が出来ます。

「会員ギャラリー」の作品募集

毎号フルカラー印刷化を機に、次号から、新コラム「会員ギャラリー」がスタートします。

絵画・書・写真・工芸等、会員の皆さんの傑作・ 力作をシリーズで毎号掲載します。日頃の腕前を 是非ご披露下さい。

作品と同時に、200字程度の作品に関するエピソード等のコメントも一緒に掲載します。作品を写真撮影の上、コメントを付記して編集委員会あてにメールにてお送り下さい。他の方法をご希望の方は編集委員会までご相談下さい。

皆様のご出展をお待ちしています。

編集後記

今号はフルカラー印刷での発行です。

これまでは特別な号などの際にだけカラー発行していましたが、今号からは毎号カラーでお届けすることになりました。会員の皆様にはせっかく沢山の写真等ご提供いただきながら、物足りない思いをさせてしまった事と申し訳なく思っています。

これを機に、読む楽しさに加え、見ても楽しめる 会報を目指そうと編集委員一同、心を新たにしてい ます。次号からは、上記、新コーナー「会員ギャラ リー」がスタートします。お楽しみに。 (地田 記)